

## 為替レート「予想」は困難

為替レートが大きく変動している。米国でのインフレの進行と急激な金利引き上げ、世界経済の先行きに対する不安の高まり、日本での金融政策の今後の動きへの思惑など、さまざまな要因が為替レート変動を引き起こしている。

為替レートが大きく動くことで極端な為替予想も出されている。「いずれは160円を超えるような円安になる」とか、「どこかで為替レートが反転して100円を割るような円高もありうる」など、どちらも首をかきあげたくなるような説を唱える人もいるようだ。



伊藤元重の

## エコノウオッチ

こうした予想が絶対に当たらないとは言わないが、大きな問題がある。それは、為替レートを予想することは不可能であるということだ。詳しく解説するスペースはないが、仮に為替レートの動きが少しでも予想できるといふなら、現実の為替の動きはその予想を織り込んでしまうはずだ。「市場を出し抜くことは不可能だ」といふ言い方がある。現実の市場の為替レートの動きは、市場の予想や思惑までも全て織り込んだ結果としてのものであるはずだ。それでも為替レートを少しでも予想できると思う

## 大幅変動前提に備えを

なら、それは自分の知識や判断が市場を超えたものであるということになる。

さて、今後の為替レートの動きを予想するのは難しいとしても、為替レートの変動幅が大きくなっていることは事実だ。なぜ、これだけ為替レートは大きく変化するのであろう。最近の動きを見て、そう疑問を持つ人は多いだろう。

ただ、為替レートは本来大きく変動するものである。為替レートが大きく変動すると世の中では大騒ぎになるが、半年や1年程度、大幅な円高や円安になったからと言って、経済全体が深刻な影響を受けるものでもない。足元の極端な円安で大きな被害を受けている

企業はあるだろうが、マクロ経済全体としてみた時、円安が一時的なものである限り、その影響は限定的であるのだ。もちろん、円安で利益を増やしている企業も少なくない。

仮に円安に動くことで日本経済に壊滅的な被害が及ぶようであるなら、為替レートもそんなに急速に動くはずはないだろう。為替レートが糸の切れた風(たこ)のように大きく動くのは、短期から中期にかけては為替レートの変化がマクロ経済に大きな影響をもたらすものではないからだ。

今後の為替レートの動きを考える上で重要なことは、どのような水準になるのか「予想」することは

なく、当面は円高にも円安にも大きく振れると考えるべきことだろう。グローバル経済の激しい動きが為替レートの変動にも反映されるのだ。企業経営の視点では、円高にも円安にも大きく振れる可能性を考慮し、どちらに振れても困らないような備えが求められる。当たり前のこと言っているようだが、今回の円安の動きが起きる以前の10年近くは、為替レートはあまりにも変化幅が小さかった。だから、多くの人が漠然と為替レートは大きくは変動しないものだと思えるようになっていた。そうし

た安定の時代は終焉(しゅうえん)しつつある。  
(東京大学名誉教授)